

海外研修レポート

テーマ

「日本とニュージーランドにおける文化の比較」

株式会社トップライズ 技術本部 NTS 課

根本 真友子

1.はじめに

日本は世界的に見て独特の文化を有しています。私たちが当たり間に思っていることが世界規模で見ると実は大変珍しいこともしばしばあります。世界と日本を比較することで改めて日本の良い所も悪い所も気が付くものであると思います。今回数ある海外諸国の中で私たちの研修場所となったのはニュージーランドです。ニュージーランドは若い国であり経済も良好な現在最もホットな国の一つであると言えます。同じ先進国としてどのような共通点や差があるのか、それを加味し新しい発見に繋げたいと思います。

異国の地に降り立ち肌で感じることで、言葉や映像で抜け落ちてしまう部分まで感得することは、世界中の情報が家にいながらにして手に入る現代にとって得難い財産と言えるでしょう。

2.本文

2.1 ニュージーランドと日本の概略

ニュージーランド（英語: New Zealand）は、南西太平洋のオセアニアのポリネシアに位置する立憲君主制国家です。島国であり、二つの主要な島と、多くの小さな島々から構成されていて面積は 268,000 km²です。北西に 2,000km 離れてオーストラリア大陸（オーストラリア連邦）と対し、南方に 2,600Km 離れて南極大陸があります。北はトンガ、ニューカレドニア、フィジーがあります。イギリス連邦加盟国で、英連邦王国の一国です。人口は約 440 万人(2013 年現在)でその約 68%がヨーロッパ系の白人で、次に多いのが先住民民族マオリ人で約 15%となっています。近年は移民の量が増え、アジア人の人口が増加しています。

一方日本は北半球にあり、東側および南側が太平洋、西北側が日本海、西側が東シナ海、北東側がオホーツク海と 4 つの海に囲まれた島国です。面積は 377,900 km²とニュージーランドの約 1.4 倍の大きさを有しています。人口は約 1 億 2 千万人（2013 年現在）です。



図 1、ニュージーランドの衛星写真

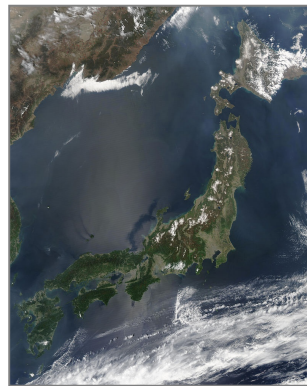


図 2、日本の衛星写真

2.2 カンタベリー地震

初日の研修はクライストチャーチにて行われました。ニュージーランドは2011年にマグニチュード6.1の大震災に見舞われ、この地震でクライストチャーチは大きな被害を受け、現在も復興の途中です。観光客にぎわう活気ある都市であったと窺っていましたが、震災の傷跡が今でも生々しく残る町という印象を強く受けました。



図3、修復工事中のアートセンター



図4、修復工事中の大聖堂

震災後の復旧工事は現在も続けられている途中ですが、取り壊しが決定したものの作業がなされずに立入禁止になったまま放置されている建物等も多く見受けられました。図3や図4について、どちらも震災前に多くの観光客でにぎわう観光スポットでしたが、今では足場が組まれ当時の様子は見る影もありません。歴史的建造物も大きな被害を受け、特に大聖堂の崩壊はニュージーランドの人々の心に大きな傷を残しました。



図5、歴史的建造物である「追憶の橋」



図6、修復工事の様子を見学する一行

クライストチャーチの中心地、キャセドラルスクエア(大聖堂広場)より少し離れた場所には新しい大聖堂が立てられ新名所となっています。この大聖堂は日本のデザイナーがデザインしたもので、材料を全てニュージーランドで調達できるようになっています。屋根には紙を材料に使用しており、非常に珍しい建造物であることが窺えます。



図7、仮設の大聖堂 外観



図8、仮設の大聖堂 内観

また、震災の爪跡の残る市街地には新名所としてショッピングモールの「Re:START」が開店していました。これは輸出入に使用されるコンテナの中をそのまま店舗の一区画として使用しており、コンテナには「Re:START」の文字が刻印されています。店舗の種類は飲食店、本屋、雑貨など様々で、観光客をターゲットにしたお土産物を扱うお店もありました。モールの広場ではギターの引き語りのパフォーマンスが行われていました。飲食店は、仕事の休憩に来た土木関係者で賑わい、非常に活気有る空間でした。

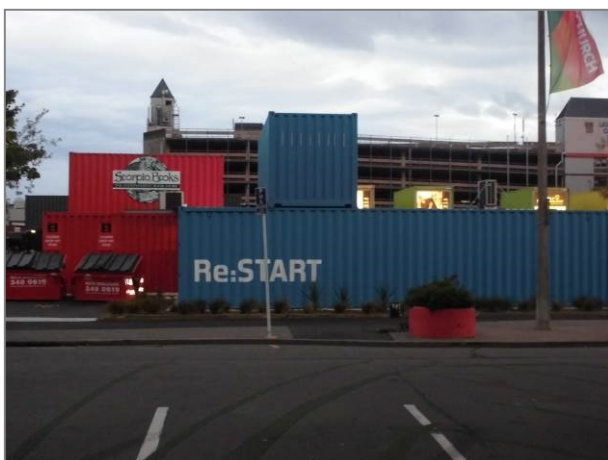


図9、Re:STARTの刻印



図10、コンテナモールの様子

2.2 環境に対する高い意識

ニュージーランドは非常に自然保護の対する意識の高い国です。南島および北島あわせて14箇所の国立公園が存在します。ニュージーランドにしか生息していない飛べない鳥なども沢山いましたが、イギリス人が移り住んでいてからはその生態系はバランスを崩し、多くの原産の動植物は絶滅及び絶滅危惧種となってしまいました。今では積極的に原生林や原産の生物の保護に取り組んでいます。

町と町を移動する間には広大な山々と芝生が広がっており目を見張るほどです。よく見ると放牧されている羊や牛や鹿などの家畜を認めることができます。再生エネルギーにも力を入れており、風力発電の風車も見受けられました。雨が少ないので青々とした緑の草原を維持するためには人工的にスプリンクラーによって散水する必要があります。



図 11、放牧されている羊



図 12、放牧されている牛



図 13、風力発電の風車



図 14、スプリンクラーでの散水

市街地に目を移すと、自宅は平屋の庭付き一戸建てが主流となっています。庭には色とりどりの花が手入れされ、待ち行く人の目を楽しませていました。環境意識が非常に高く、交通手段としての自転車の利用が推進されており、道路には自転車専用レーンが設置されています。自転車に乗る際はヘルメットの着用が義務付けられており、服装も目立つようにしなければいけません。また、街角のいたるところにリサイクル可能なゴミ専用のゴミ箱が設置されておりました。ここに入れられたゴミは収集者が分別を行う仕組みになっています。



図 15、自転車利用者



図 16、町に設置されているゴミ箱

2.3 ニュージーランドの産業

ニュージーランドは食料自給率が 300%を越えており、多くの食料品を海外へ輸出しています。主な輸出先は豪州及び中国で、合わせると全体の三割ほどになります。日本もニュージーランドの食品を輸入しており、特にチーズとキウイフルーツを多く輸入しています。反対にニュージーランドでは電化製品はほとんどを輸入しています。日本からもニュージーランドへ向けて輸出されていますが、日本からの輸入品としては特に車が目立ち、実際に街中には日本メーカー車ばかりが走行していました。



図 17、街中を走る車の様子

ニュージーランドで最大の産業は観光業です。ニュージーランドには美しい自然や独特の文化があり、日本とは季節が間逆となっているので中高年の方々に人気名観光地となっています。ニュージーランドには大きな島として南島と北島があり、ほとんどの観光客はどちらかの島を訪れますが、南北で特色がそれぞれあります。南島には自然公園が沢山あることから美しい自然を堪能するのに非常に人気です。主な都市に、地震の影響を大きく受けたクライストチャーチ、美しい町並みのクイーンズタウンがあります。クイーンズタウンより約 300Km 離れた場所にはミルフォードサウンドやマウント・クックがありますが、そのそばに「テカポ湖」という大変美しい湖があります。この湖は非常に珍しい湖で、湖水の色がミルキーブルーの色をしています。これは「氷河湖」と呼ばれ、微細な氷河時代の岩石の粒子が湖の水に溶け込んでいるためにこの様な色になっています。



図 18、氷河湖であるテカポ湖

北島には、大都市オークランド、マオリ族文化の色濃いロトルアといった自然と文化の両方が楽しめる場所が沢山ありました。オークランドには他の都市には無い高層ビルや、お洒落なお店、きらびやかなイルミネーションなど娯楽があふれています。特に目を引くのが南半球最高 328m のスカイタワーで、展望台からは街を一望することが出来ます。オークランド散策の際には様々な国籍の方を見る事が出来ました。近年ニュージーランドには移民の積極的な受け入れが起きており、特にアジア圏からの人数が増えています。移民による経済的な効果は大きく、現在のニュージーランドの良好な経済を支える要因になっています。

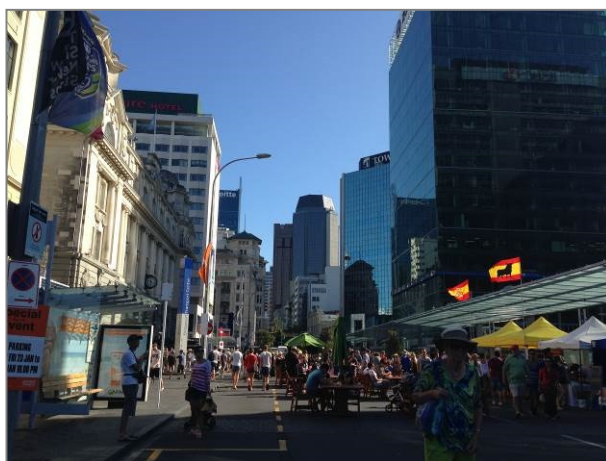


図 19、オークランドのメインストリート ⁶



図 20、スカイタワー

また、ニュージーランドが英連邦王国の一国になる以前、先住民族のマオリ族が全土に住んでいました。新たに移住してきたイギリス人はマオリ族の権利を尊重し、両者ともお互いに尊重しあうことで現在その関係は良好なものとなっています。ロトルアにはマオリ族の文化を色濃く体験することが出来る施設がありますが、この地域は地熱活動の活発な温泉街としても有名で、ニュージーランドで最初に観光業が栄えた場所でもあります。マオリの人々に根ざすおもてなしの文化により、マオリ族の伝統芸能などを堪能することができます。



図 21、ロトルアの間欠泉

3. おわりに

ニュージーランドは旅行先として非常に魅力あふれる国です。私は旅行をして多くの美しい自然に触れたことから緑豊かな国との印象を受けました。しかし、実のところ日本の方が何倍も緑が多く、工業生産力も優れているといった事実があります。それでもこの若いニュージーランドという国が魅力的に映るのは、自国の魅力を把握し、上手に他国にアピール出来ているからなのではないかと思いました。日本は欧米の先進技術に目を向ける余り、自国の美しい自然や独自の文化を疎かにしてしまったのではないのでしょうか。海外で私は幾度か日本のことを思い出す機会がありました。それはほんの些細なきっかけで、取るに足らないようなことなのですが、トイレの造りであったりとか、使い捨ての容器の丈夫さであったりとか、国内にいるときはそれが当たり前だと思っていたものが、実は高品質であったことに気が付きました。日本人の繊細な目でなければ気が付かないようなことがまだまだ世界中には沢山あるのだと思います。是非自分のアンテナを敏感にして、海外へ飛び出して欲しいと思います。思いもしなかった発見と経験が必ずあります。